

平成30(2018)年度 病虫害発生予報 第2号

平成30(2018)年5月17日
栃木県農業環境指導センター

○気温の上昇に伴う各種害虫の発生に注意しましょう！

予想期間 5月下旬～6月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根拠
 - ・ 昨年10月の再生稲調査での発生量は平年並(平年比100.0%:株率)。(±)
 - ・ 昨年11月のウンカ類の越冬前幼虫の発生量はやや少なかった(-)。ウイルスの保毒虫率は、県平均が5.5%で、10%を超える地点が数地点確認された。(+)。
 - ・ 向こう1か月の気温は高い見込み。(+)。
- (3) 対策
 - ・ 発生が多い地域では、地域ぐるみで本田期防除を実施する。
- (4) 備考
 - ・ [平成29\(2017\)年度植物防疫ニュース\(速報No.12\)](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご(親株) ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根拠
 - ・ 4月調査での発生量は平年並(平年比79.5%:ほ場率、平年比58.0%:株率)。(±)
 - ・ 向こう1か月の気温は高い見込み。(+)。
- (3) 対策
 - ・ 本ほで薬剤抵抗性を発達させたハダニ類を親株に持ち込まないために、本ほ作業後に親株の管理作業を行わない。
 - ・ 雑草はハダニ類の発生源となるため、除草を徹底する。
 - ・ 気門封鎖剤やチリカブリダニ製剤[野菜類(施設栽培)]を活用し、有効薬剤を温存する。なお、一部の殺虫・殺菌剤は天敵に悪影響があるため注意する。
 - ・ 気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。また、殺卵効果のある薬剤と組み合わせてもよい。
- (4) 備考
 - ・ 天敵放飼から1～2週間は薬剤散布を避け、使用する薬剤は天敵に影響のないものを選択する。
 - ・ [薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

3 果樹 果樹カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量： **多い**
- (2) 根拠
 - ・ 現在のフェロモントラップへの誘殺数はやや多い。(+)。
 - ・ 向こう1か月の気温は高い見込み。(+)。
- (3) 対策
 - ・ 夜温が下がらない蒸し暑い日の日没時に飛来が多い。こまめに園内を観察し、飛来が認められたら防除する。
- (4) 備考
 - ・ 未発生園での過度な防除はハダニ類やカイガラムシ類等の天敵相を破壊し、他の害虫種の多発に繋がるため注意する。
 - ・ 山林に隣接したり、過去に被害が大きかった果樹園では特に注意する。

4 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根拠
 - ・ 現在の発生量は平年並(平年比86.4%:ほ場率、平年比34.6%:株率)。(±)
 - ・ 向こう1か月の気温は高い見込み。(+)。
- (3) 対策
 - ・ 薬剤がかかりやすい生育初期からの防除を行う。
 - ・ 葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に薬剤を散布する。
 - ・ 化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤を活用する。
- (4) 備考
 - ・ [薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 きく アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は少ない(平年比0.0%：ほ場率、平年比0.0%：株率)。(一)
・向こう1か月の気温は高い見込み。(十)
- (3) 対 策 ・雑草はアザミウマ類の増殖源になるので、ほ場内外を除草する。
・苗での持ち込みに注意する。
・施設開口部に防虫ネットを張ることにより、アザミウマ類の侵入を防ぐ。
・発生初期から、スピノエース顆粒水和剤等を散布する。
・アザミウマ類はウイルス病(キク茎えそ病、キクえそ病等)を媒介するので注意する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

6 その他の病害虫

		現 況	発生予想			現 況	発生予想
水稲	イネミズゾウムシ	—	平年並	きゅうり	べと病	平年並	平年並
麦	赤かび病	少	少		うどんこ病	やや多	やや多
トマト	コナジラミ類	平年並	平年並	たまねぎ	べと病	平年並	平年並
				なし	黒星病	少	やや少

○麦類 赤かび病

- ・開花・出穂期での発生がない場合でも、天候(登熟期連続降雨など)によっては発生が見られることがあります。天候に注意し、必要に応じて追加防除を行いましょう。
[植物防疫ニュース\(速報No.1\)](#)を当センターHPに掲載中。

○施設栽培の病害虫

- ・トマト、きゅうり、いちご等の施設栽培では、施設内の害虫が野外へ飛散しないよう、栽培終了時にハウスの密閉蒸し込み等で防除しましょう。特に、コナジラミ類はトマト黄化葉巻病、トマト黄化病、キュウリ退緑黄化病を、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病を媒介します。ウイルス保毒虫を次作に持ち込まないためにも、飛散を防止して伝染環を断つことが重要です。
- ・栽培末期の病害虫は、各種薬剤に抵抗性を発達させている可能性があります。葉かき後の葉や残渣には病害虫が付着しているため、そのままほ場内外に放置すると抵抗性を発達させた病害虫の拡散につながりますので、適切に処分しましょう。

1か月気象予報(予報期間5月19日から6月18日 5月17日気象庁発表)

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。

	低い(少ない) 確率	平年並の確率	高い(多い) 確率
○気 温	30%	30%	40%
○降水量	20%	40%	40%
○日照時間	40%	40%	20%

NEWS & INFORMATION

- 「栃木県農薬管理指導士」養成研修(7月18、19日開催予定)、更新研修(7月18日開催予定)が開催されます。申込期間は6月4日(月)(予定)からとなりますので、特に更新対象者の方はお忘れなくお申込みください。詳しくは、県農政部経営技術課環境保全型農業担当までお問合せください。(TEL 028-623-2286)
- 県では、農薬による事故等の発生防止を図るため、6月から8月の3か月間を「農薬危害防止運動期間」とし、農薬の適正使用等について啓発活動を行います。
- 農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう!

詳しくは農業環境指導センター(TEL 028-626-3086)までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ(<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>)でもご覧になれます。